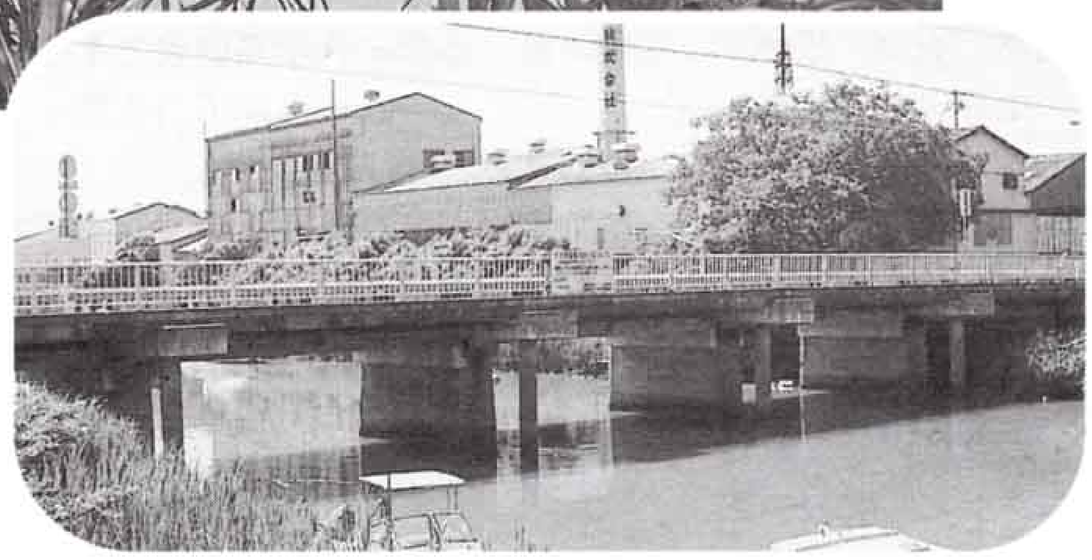
富士の民話 あれこれ

沼川の かっぱ

沼川へかかっている河合橋付近や、沼川と滝川の合流するあたりは、昔はとても深いところでした。

今回はこの沼川のふちにたくさんすんでいたと言われる、かっぱにまつわるお話の一つを紹介します。

◀沼川と滝川の合流点



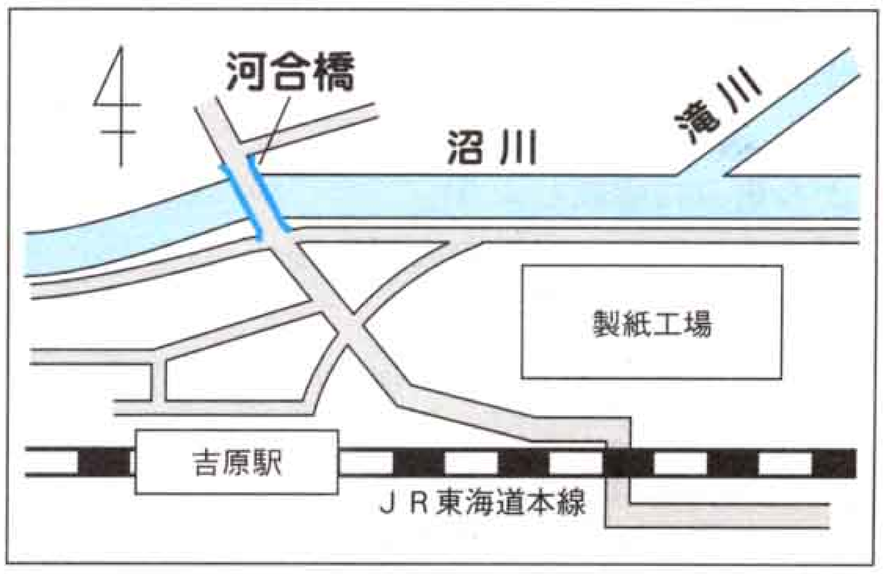
▶河合橋

昔、吉原宿が元吉原の今井にあったころのことです。宿場のすぐ北側を沼川が流れていて、特に滝川と合流するあたりは深いふちで水量も多く、そこには四十九匹のかっぱがすんでいました。

あるとき、宿場に泊まった大名の家来が、川で馬の身体を洗っていました。すると、一匹のいたずら好きのかっぱが、馬をからかおうとして馬のしっぽをつかんで、力いっぱい水の中へ引き入れようとしました。驚いた馬は、川の中から飛び出して街道の方へ駆け出しました。ところがそのとき、かっぱも一緒に街道へ引きずり出されてしまいました。

かっぱは、「これはしくじった」と大急ぎで川の方へ逃げ出しましたが、とうとう大勢の人たちに取り巻かれて、捕らえられてしまいました。

人々はこのいたずらかっぱを、馬屋の柱に一晩じゅう縛りつけて、次の朝になってようやく放してやりました。



かつての沼川は、アシやマコモが生い茂り、水はとてもきれいに澄んでいました。子供のころは、よく川へ遊びに行ったものです。河合橋から飛び込んで泳いだり、釣りなどをして遊んだりしました。沼川ではウナギも多くとれたんですよ。

時間を忘れて遅くまで遊びほうけていると、近所の人に「いつまでも遊んでいると、かっぱに川へ引きずり込まれるぞ」とよく言われたものです。かっぱの存在を信じていたわけではなかったのですが、そう言われると何だか怖くなって、急いで家に帰ることもありました。今思えば、そうやってかっぱの名を借りて、地域の人たちが子供たちに水の怖さを教えるなどして、地域ぐるみで教育をしていたのでしょうね。

川で遊んだ昔のことや、かっぱの伝説のあった土地柄そのものが、今ではとても懐かしく思います。あの環境を現代にも残したかったですね。今の子供たちにも、かつての私たちの遊びを経験させてあげたいものです。

駿河郷土史研究会副会長
渡邉 繁治（しげはる） さん
（今井一丁目）

こちら編集室

今回の特集「富士市の水」はいかがでしたでしょうか。私も中・高校生だったころ、毎日のように部活動（テニス）の後、水飲み場に一目散に駆けていき、ごくごく水を飲んでいたものです。その水が冷たくておいしかったこと。練習の疲れが吹き飛んでいきました。

しかし、我が子たちは、のどが渇いたと言っては、水ではなくスポーツドリンクやジュースを飲んでいます。これらは結構糖分も含まれているので、飲み過ぎると体によくないと言ってはいるのですが…。もっと富士市の水のありがたさをわかってほしいものです。

人　口　239,507人　（前月比＋132）
男　119,263人　（＋80）
女　120,244人　（＋52）
世　帯　80,146世帯（＋128）6月1日現在
編集・発行　富士市総務部広報広聴課
〒417-8601 静岡県富士市永田町1-100
☎51-0123　FAX51-1456

ちきゅうにやさしい 富士市
PRINTED WITH SOY INK

広報ふじは古紙100％の再生紙と環境に優しい大豆油インキを使用しています